

目次

1. 巻頭言
2. 令和3年度 開放型登録医療機関紹介
3. 定年退職のご挨拶 / coffee break
4. 新規 MRI の紹介
5. コロナ禍における児童精神科病棟の取り組み
6. 編集後記



国立病院機構の理念

私たち国立病院機構は、国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために、たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに、患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し、質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます。



宮崎東病院の基本理念

「主役は病める人」をモットーとして患者さんの人権を尊重し、良質かつ高水準の医療を提供します。



巻頭言 2022年3月 退任を迎えるに当たり

2022年1月初旬から爆発的に増加した県内の新型コロナウイルス感染症第6波は1月21日～3月6日のまん延防止等重点措置実施後も減少は緩やかで未だ終息に至っていない。

また2月24日には突然ロシアがウクライナに侵攻し、現実の事と思えないような、余りに野蛮な戦争の姿を眼前に晒した。

世の中はパンデミック感染症、国家間戦争と大きな災害が続き、今後はインフレ、経済危機ではないかと思わせる社会不安の様相を見せている。丁度1918年のスペイン風邪が第二次世界大戦につながった歴史を呼び起こす。

私はこの4年間、2018年4月から2022年3月、宮崎東病院の院長職にあった。後半がコロナの時期に当たる。

前半の2年間、私が腐心したことは、外来の充実と2017年4月に開設された児童精神科の基礎確立だった。医療制度の「入院から在宅へ」という大きな流れを受けて、外来の重要度が増していった。癌診療なども入院を必要とせず外来で加療する時代になった。長期入院は批判的に見られた。県内で初の児童精神科は未だ認知度も低く、周辺に関心や支援も不十分の状態であった。その中で患児の置かれた状況の厳しさとスタッフの努力が心に残る。

2019年9月には地域医療構想が思わぬ展開を見せ、再検証指定病院の公表という事件があった。公的病院は不要だと言わんばかりの異常事態となった。

そして後半2020年3月県内初の新型コロナウイルス患者が発生した。当院は2006年の新型インフルエンザ診療体制に則り、行政や大学、県病院などと共にコロナ診療に当たった。最終的に県内は中核病院の総動員という形を取って診療をこなしたが、当院は中でも率先して患者の診療を行えたと自負している。

当院のこれまでの姿勢をどう表現したら良いのだろう。批判に晒されながら実直に持ち場を守った病院。様々な要請に合わせて各地に転戦した社会の一機関。というのは買い被りだろうか。

これまでの歩みを思い返すとき、当院の歩んだ歴史を考えないわけには行かない。誕生において、戦後の蔓延する結核に対し社会防衛する病院だった。宮崎県特有の肺吸虫症の診療、高度成長期の小児喘息、児童福祉と共に成立した筋ジス病棟、難病中の難病ALSの受け入れという変遷である。そして現在は児童精神科、肺癌、脊髄疾患という新たな必要に対応している。そして新規感染症にも取り組んだ。

以上の流れを振り返るとき、病院が経済的な効率だけで業務をやめて良いという理屈はないのだと感じる。そして常に社会の要求に応じて努力し、入院機能を保持すべきなのだと感じる。

2022年度、もしコロナから脱却できたなら、再び地域医療構想と向き合う日々だろう



院長
塩屋 敬一

令和3年度 開放型登録医療機関紹介

はるやま医院

院長 春山 幸洋 先生

〒880-0925

宮崎市大字本郷北方 2107-1

TEL : 0985-53-1212 FAX : 0985-53-1213

標榜診療科：内科、放射線科、外科

リハビリテーションセンター科



2018年4月1日に当院の前身の竹迫医院に赴任し、3年間竹迫堅之助先生からご指導を賜り、2021年9月1日より医療法人山笑会 はるやま医院として継承開業をさせていただきました。

専門領域は消化器・肛門外科で、2000年に宮崎大学第一外科に入局し、宮崎大学、宮崎・都城・鹿児島医師会病院、宮永病院等に育てていただきました。その経験を生かして宮崎南部の肛門外科・消化器分野で地域医療に少しでも貢献できればと考えています。

当院は19床を有する有床診療所で、手術室、内視鏡室、16列ヘリカルCT、開放型MRI、リハビリ施設等を備えたいわゆる重装備クリニックで、竹迫医院から数えますと開院以来40年以上にわたり地域に密着した有床診療所として宮崎市南部から青島、内海、日南北部の広域にわたる患者様の急性期・亜急性期の様々な疾患の診療を行ってまいりました。

CT、MRI等多数の検査機器があることはとても有用な反面、それを求めて様々な症状の患者さんが来院されます。基本的に、断らない小さな救急病院を目指して診療を行っておりますので、検査を行いますと様々な疾患が見つかります。専門外の疾患については近隣の先生方や高次医療機関の先生方に治療をお願いさせていただいておりますが、特に呼吸器疾患や神経内科の分野の患者さんについては宮崎東病院様におんぶにだっこの状態でお世話になっており、感謝してもしきれない状態です。

当院に赴任するまで、患者様をご紹介いただく立場での職場経験しかありませんでしたが、今はお願いすることがほとんどの立場となりました。送られる側の気持ちもよくわかっているつもりではございますが、大変苦しい状況での紹介となってしまうこともございます。心苦しい次第ですが、ご容赦いただけますと幸いです。

今後ともよろしくお願い申し上げます。



※開放型登録医制度

宮崎東病院では平成16年9月より開放型病床を設置しております。

開放型病床とは、かかりつけ医師（開業医）と宮崎東病院医師（主治医）とが連携して、入院診療を行うというものです。患者様にとっては、かかりつけ医師との関係がとぎれることがないため、入退院への不安が軽減されます。現在、104医療機関の先生方にご登録いただいております。

定年退職のご挨拶



このたび、2022年3月31日をもって退職させていただきます。

私は18年前の2004年、『宮崎東病院に呼吸器外科を開設せよ』との指令により着任いたしました。同門の白間先生と共に、当時では県内最広の手術室の設計から着手し、機能性の高い第2手術室が完成しました。ただ赴任当初の1か月間は手術が無く、デスクの前で患者さん待ち

の日々を過ごしたことは懐かしい思い出です。

その後、順調に手術症例も増えて安全な手術が行えましたことは、看護部の全面協力と医局の先生方のご支援のお陰であると、いつも感謝しております。

医療者・患者さん共に頑張っても避けられなかった手術死亡もありますが、本年3月までに全身麻酔手術は1348件、局所麻酔手術も1000件を超えています。多職種介入によるチーム医療のお陰で、他院にも負けない手術成績が残せたのではないかと考えています。“肺の病気は宮崎東病院で診てほしい”と来院される患者さんもおられます。内科・呼吸器内科の長い歴史に外科も加わり、一貫した治療ができる病院へと変化する礎となれましたことを大変光栄に思っております。

2018年からは副院長を拝命し、病院長の補佐と30を超える会議の委員・委員長として貴重な経験もさせていただきました。

4月からは後任として大学医局から若い呼吸器外科専門医が赴任して参ります。私は引き続き診療や手術、看護師特定行為研修のサポートをさせていただく予定です。

新病院長のもと、宮崎東病院が更なる躍進を遂げられますよう祈念して、退職のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



副院長
枝川 正雄



Coffee break

今日3月18日の出来事をWikipediaで見ると、「2018年 - 2018年ロシア大統領選挙の投票が行われ、ウラジミール・プーチンが得票率76%で再選を果たした」と書いてある。そこで、ロシアとウクライナ関係の記事をみると古くは9世紀にまで遡り、もともとはキエフ大公国という1つの国家だったそうである。12世紀、蒙古の襲来を機に、その国家の北東部はロシアの原型であるモスクワ大公国となった。以来約900年ものながきにわたり、両国は周辺のポーランドやリトアニアなどの周辺国を巻き込みながら紛争を繰り返している。確かに今回のプーチン大統領によるウクライナ侵攻は暴挙の極みだが、出来事の表面だけを捉えて知った気になることは慎みたい。

近代の東洋史学者に内藤湖南(1866~1934)という人物がおり、その学説は現在でも日中学術研究に影響を及ぼしている大学者である。内藤は、日中関係を理解しようと思うならば、日中の文化はともに黄河流域を起源とし、日本文化はこの古代文化を取り込むことで成長してきたことを無視できないとした。ロシアとウクライナ、日本と中国、韓国など、国家間関係には重い歴史がある。理解をしていないものが、まことしやかに論説をはるのをバラエティー番組などでよく耳にするが、はたしてこれでよいのかと思うことがある。せめて鵝のみにしないようにせねばなるまい。

新規MRIの紹介



副診療放射線技師長
辻 啓介

令和4年2月にMRIが最新機種に更新されました。

前装置を約15年使用しましたが、劣化のためメンテナンスが困難となりつつありました。

新装置は前装置と同様1.5Tの装置ですが、高速撮像シーケンスやディープラーニングによる画質の向上など、たくさんのメリットがあります。

患者様に短時間で高画質な画像が提供できるよう、これからも定期的に改善を行なって

いく予定です。

また薄暗かった検査室は明るくなり、また装置内も広がったことで、圧迫感がより緩和されるのではないかと思います。

医療安全上、MRI検査では患者様の入室には充分注意する必要がありますが、今回の更新に伴いゲート式磁性体センサー、ハンディタイプの金属探知機を導入致しました。

検知すると「小さな金属を検知しました」などの注意メッセージが流れ、不用意な入室を防ぐことに役立ちます。

また、患者様ばかりではなく、医療スタッフ入室時の金属チェックにも活用できます。

使用紹介時にわからないことがあれば、当院放射線技師まで、お気軽にお声がけください。

国立病院機構 宮崎東病院

☎ : 0985 (56) 2311 (内線 312)



コロナ禍における児童精神科病棟の取り組み

当病棟は、子どもの「こころとからだ」の病を治療する目的で、児童思春期専門の治療病棟として平成29年4月に開棟し、令和3年度で5年目をむかえました。開棟からこれまで、285名の新規入院がありました。

1階病棟
看護師長
竹尾 千代



病棟入り口



1階病棟スタッフ



発達障がい・被虐待・自傷・摂食障がいのある小学生から中学生の子ども達の、心理社会的発達や、認知の状況、親子関係を含めた家族環境、子ども自身の精神症状・身体疾患も含めてアセスメントを行い、すこやかな成長発達と集団生活への順応度を考慮し、支援を計画し実施しています。



新型コロナウイルス感染状況を考慮し、外出・外泊、保護者の病棟内立ち入りは禁止となっています。外出・外泊が出来ないことで入院を躊躇される保護者もおられる状況がありました。そこで、入院を勧められた児童・保護者に対し、タブレットで病棟の様子を撮影し、親子で見てもらいながらパンフレット内容に沿って「入院生活の紹介・説明」を行っています。説明を受けられたほぼ全員の方が、「病棟内の様子を知ることができ、安心して入院させることができました。」とアンケートで回答されています。

「保護者に安心して頂く取り組み」として受け持ち看護師が、担当している児童の生活の様子を記入したファイルを、面会時に提示し確認して頂いています。入院中の様子や、できるようになったこと、今後取り組んでいきたいことなどを提示しています。

退院後に子どもの変化を笑顔で話されるお母さんの姿も見るできるようになりました。

作業療法士に「児童との関わりについて」学習会を依頼し、看護師が毎日2時間子ども達に合わせた遊び・日々の活動に取り組んでいます。季節ごとの行事も開催し、子ども達は楽しみながら、コミュニケーションを学んでいます。



年間の病棟行事の様子

病棟生活を通して生活リズムを整え、身につけていない生活行動を習得できるよう関わっています。また、自閉スペクトラム症の児童の入院受け入れをしており、臨床心理士と看護師とで SST (Social Skills Training) や TEACCH プログラム (Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped CHildren) を取り組み、教育・日常生活の自立支援を行っています。

毎日、多職種合同でケースカンファレンスを開催し、倫理的視点や病状・対応方法の周知を行っています。さらに、対応困難な児童に関しては、宮崎大学精神科教授と連携し、対応や関わりについてカンファレンスを実施しています。



多職種合同カンファレンス

これからも医師・看護師・臨床心理士・PSW 病棟全職員で、一人、一人の患者ケアに丁寧に取り組んでまいります。

編集後記

当広報誌「NEWS 宮崎東」編集委員長の谷岩でございます。ながらくこの任に就かせていただきましたが、この3月あえなく退職となりました。

私が当院に赴任したのは平成19年で、15年程編集に関わってまいりました。院内行事や出来事を近隣の医療機関、関連病院にお届けし、当院の存在を身近なものとして認識して頂ければと思い活動してきたつもりです。聞けば必ず記事を読んでいるという先生もおられたとのことで、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

これからは後任に引き継ぐこととなりますが、変わらぬご愛顧賜りますようお願い申し上げます。誠にありがとうございました。

